



助けられ大賞

『助けて頂きありがとう！』

富岡 和子 （長野県須坂市）

我が家には知的に障害を持つ23歳の孫がいます。長野の養護学校を卒業して須坂市内の夢工房という施設に通い始めて5年目になりました。孫の母親がどんなに障害が重くても施設と家の往復だけではつまらない、出来るうちにいろいろな経験をさせ世界を広げたいと言って2年位前から長野電鉄のバスで施設に通う練習を始めました。どちらかというと障害は重く言葉も話せない孫が一人でバスに乗って行けるかととても心配でしたが母親が一生懸命頑張っていましたし、「おばあちゃんも協力してください。」と言われたので私も元気なうちは出来ることは協力しようと思いました。母親は仕事をしていましたので朝のバスは私が付き添う事になりました。バス停までの道順、信号を見て青になったら渡る、車に気を付ける、バスに乗る時に整理券を取る、降りる時にボタンを押す、降りたあとも施設まで歩いて行く。孫にとってはとても大変な事ばかりでした。

母親は長野電鉄の事業所に【お願いカード】を作り困

っている時にお手伝い頂けるようお願いに行きました。バス会社の方はとても気持ち良くご理解頂き運転手さん全員が解るように申し送りもして頂いたようです。

何回か練習していよいよ孫が一人で乗れるようになりました。毎朝バスの運転手さんに「お願いします。」と声をかけるとバスの運転手さんは必ず前のドアをあけて私に「わかりました。」と反対に声をかけてくださいました。そのうち運転手さんから「ばあちゃん、ちゃんと乗っているから心配ないよ。」と言ってもらえるようになり本当に嬉しかったです。孫がボタンを押せない時はいつものバス停で降ろしてもらったり、切符を入れ忘れた時も声をかけてもらったりしていたようです。私にも「ばあちゃん毎日ご苦労様。」と優しい言葉もかけて頂きました。

孫がバス停で降りたあとは寒い冬の日も暑い夏の日も夢工房の職員の方が何ヶ月もこっそり見守りをして下さったと聞いています。

また近所の方も孫と私の姿を見て声をかけてくださり、出来ない時はいつでも手伝うよ、と言ってくれる人もありました。孫は孫で一人で行けるようになっても時間になると私を待っていてくれたり、足の悪い私を気にして何度も後ろを振り返ってくれます。夢工房からの帰りもヘルパーさんの力をお借りして買い物をしたり、ミスタードーナツでお茶を飲んだりしてバスで帰ってきます。母親は孫が一人では難しい所では【お願いカード】を用意してお店の

人に頼んで協力してもらっていました。

10 / 1 から市民バスの運行でバス停が変わり、孫はまた一から練習をしています。今度は降りてから信号を二つ渡る事になりちゃんと渡れるのか心配です。今まで一緒にバスに乗っていた方も見守ってくださると言って頂き心強いです。福祉課の方も信号の見守りを協力して下さるとのこと・・・助けて頂ける人が少しずつ増えています。

家族だけでは支えきれない事を沢山の皆さんの力を借りて障がいがある孫が生き生きと生活できている事を本当に感謝しています。これからも皆さんに助けて頂きながら孫と一緒に元気に頑張っていきたいと思います。一生懸命生きていれば人の温かさや優しさに助けられる事が沢山ある事を孫に教えられました。

毎朝、私は孫に助けられ、孫は地域の方に助けられ本当に幸せです。

皆さんに感謝しながら私自身も元気なうちは私ができる事で皆さんに恩返ししたいと思っています。

